

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 7 月 5日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	修士1
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	クイーンズランド大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input checked="" type="checkbox"/> 5.民間企業(業界:人材) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他( )			

<b>派遣先大学の概要</b>					
オーストラリア、クイーンズランド州に存在する大学。オーストラリア国内で、常に5本の指に入る名門大学。7つの学部(人文学部、商経済法学部、工学/建築/情報工学学部、健康科学部、天然資源/農学/獣医学部、理学部、社会/行動科学部)と6つの研究機関(分子生命科学研究所、生物工学/ナノテクノロジー研究所、持続可能な鉱物資源研究所、脳科学研究所、がん/免疫学/代謝医療研究所、社会科学研究所)を有する。					
<b>留学した動機</b>					
自身の研究分野である翻訳について、英語圏で学びたかったため。クイーンズランド大学は日英の翻訳の講義があると知り、クイーンズランド大学を選択した。					
<b>留学の時期など</b>					
①留学前の本学での修学状況:	2015 年	修士1	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:					
③留学期間等:	2016 年		2 月~	2016 年	4 月
	修士1		年時に出発		
④留学後の授業履修:	2016 年	修士2	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016 年	修士2	年生の	5 月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		24	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0 単位	
	留学後の取得(予定)単位			6 単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015 年		4 月入学	2017 年	3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:			2 年	ヶ月間	
⑨留学時期を決めた理由:					
学部時代は部活動のため留学に行くことが困難であったため、修士で行くことを決めた。また、修士一年次に東京大学の単位をある程度確保しておかないと二年次に修士論文を提出できず、二年間で修了できないという規定があったため、修士二年次に留学することにした。オーストラリアは2月が学期始まりであったため、2月に行くことを決めた。					
<b>留学の準備</b>					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					

国際交流課を通じてのやりとりと、現地大学のアドバイザーとのやりとりの二種類で手続きを済ませた。どちらか一方ではなく、常に両方と同時に連絡をしておいた方が良かったと思った。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

初めは観光ビザで入国し、現地で学生ビザへと切り替えた。オーストラリアはネット上だけで申請ができ、健康診断も不要なため、他国に比べると楽ではないかと思う。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

現地の薬は外国人の大きな体格に合わせて作られているため日本人には強すぎるという話を聞いていたため、薬は大量に持って行った。コンタクトレンズも留学期間分をカバーできる分を日本から持っていった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から要求された保険に加入した。それ以外には特に入らなかった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

研究科に留学届けを提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFLの必要点数を確保するのに時間とお金がかかった。特にスピーキングが弱く大変困ったが、出発前に喋る練習をした方が良いことには間違いないので、TOEFLを良い機会と捉えて頑張って勉強するべき。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地は物価が高いので、服や靴など思いっ限りなるべく持って行った方が良い。カメラは重宝した。紫外線が非常に強いので、帽子とサングラスもあれば良かった。

**学習・研究について**

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Novel, History, Fiction	2				
Magical Realism and Beyond	2				
Creative Writing: Narrative	2				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>英文学、ラテンアメリカ文学、クリエイティブライティングの、三つのコースを受講した。ラテンアメリカ文学は講義型だったが、その他二つのコースは講義と演習のニコマで一セットとなっていたため、必ず発言が求められた。クリエイティブライティングの講義では毎週課題の提出を行った。どれも非常に苦勞したがやりがいがあり、受講して良かったと思う講義ばかりであった。また、講師陣の教育への意欲や、学生の講義参加への意欲が日本と比較して非常に高く、刺激を受けた。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>授業時間は3時間×3コースで週9時間、授業のための予習・復習時間は週6時間ほど。修士論文のための研究も週6時間ほど行っていた。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>コースが基本的に講義と演習のニコマで一セットとなっており、積極的な発言が求められる。予習復習、課題も毎週出るため、真面目に勉強しなければならない。</p>
<p>⑤語学面での苦勞・アドバイス等</p>
<p>やはり現地学生に英語で敵うのは難しいため、予習でどれだけレベルの高い内容を準備しておくかが鍵となった。内容さえ良ければ、また頑張って準備していけば、拙い英語でも皆が聞いてくれようとする。</p>
<p><b>生活について</b></p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学からバスで10分程の場所にホームステイしていた。同じ大学に以前交換留学していた学生から紹介して貰った。家賃は週250ドル。ルームシェアに比べると高いが、満足していた。自身専用のバスルームや冷蔵庫などが完備されている非常に綺麗な部屋だった。ホストファミリーも非常に親切で、快適に暮らせた。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>非常に暑かったが、夜は涼しく湿度も日本ほど高くなかったため、過ごしやすかった。紫外線が強く、日焼け止め・帽子は必須。主な交通機関はバス。食事は朝はシリアル、昼はサンドイッチ、夜はホストマザーの料理を食べていた。新生銀行に予め預金しておき、それをATMで引き出して現金を確保。クレジットカードも頻繁に使用していた。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>夜遅くに外出することは殆どなかったため、治安面であまり心配することはなかった。学内に保健センターがあり無料で使えたようだが、一度も体調を崩さなかったため特に使用したことはない。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>月1350ドル 内訳:ホームステイ代1000ドル、交通費100ドル、昼食代100ドル、娯楽費100ドル、その他50ドル</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>6550ドル 月の生活費3か月分4050ドル、飛行機代1500ドル、その他1000ドル</p>

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金 月5万円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
現地の日本について学びたい学生と週1で交流会を行っていた。イースター休暇の時には両親が来たため旅行に行った。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
アドバイザーの方は非常に親切だったため、頻繁に相談に行っていた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は週7日24時間開いているものもある。パソコンも使用可。ジムもあったが有料。食堂はあまり設備が整っておらず、高いため、自分でサンドイッチを作って持っていった。
<b>留学と就職活動について</b>
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
メリット: 留学での経験を面接の時に喋ることができた。 デメリット: 今年度は急に就職活動の時期が変更になり、参加できない説明会もあった。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
ネットを利用して情報収集は常に行っておく。
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
( )1.研究職 ( )2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) ( )3.公的機関(機関名: ) ( )4.非営利団体(団体名又は分野: ) (✓)5.民間企業(企業名又は業界:人材 ) ( )6.起業(分野: ) ( )7.その他( )
<b>留学を振り返って</b>
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学が就職を選択する一つの契機となった。就職か進学か迷っていた時期もあったが、留学で様々な人の助けを借りた経験を通じ、自身も人の助けになるようなことがしたいと考えるようになったからである。就職に関して、留学以前は出版業界など非常に狭い所への興味しかなかったが、留学を経て自身の興味の幅が広がったことで、就職活動の際も様々な企業を見ることができた。現在内定を頂いている会社でも、色々なことに積極的に取り組もうとする姿勢を評価して頂けたと考える。

**②留学後の予定**

修士論文を書いて卒業し、就職予定。

**③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

事務処理は大変かもしれないけれど、なるべく迅速に行ってください。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

特になし。

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**